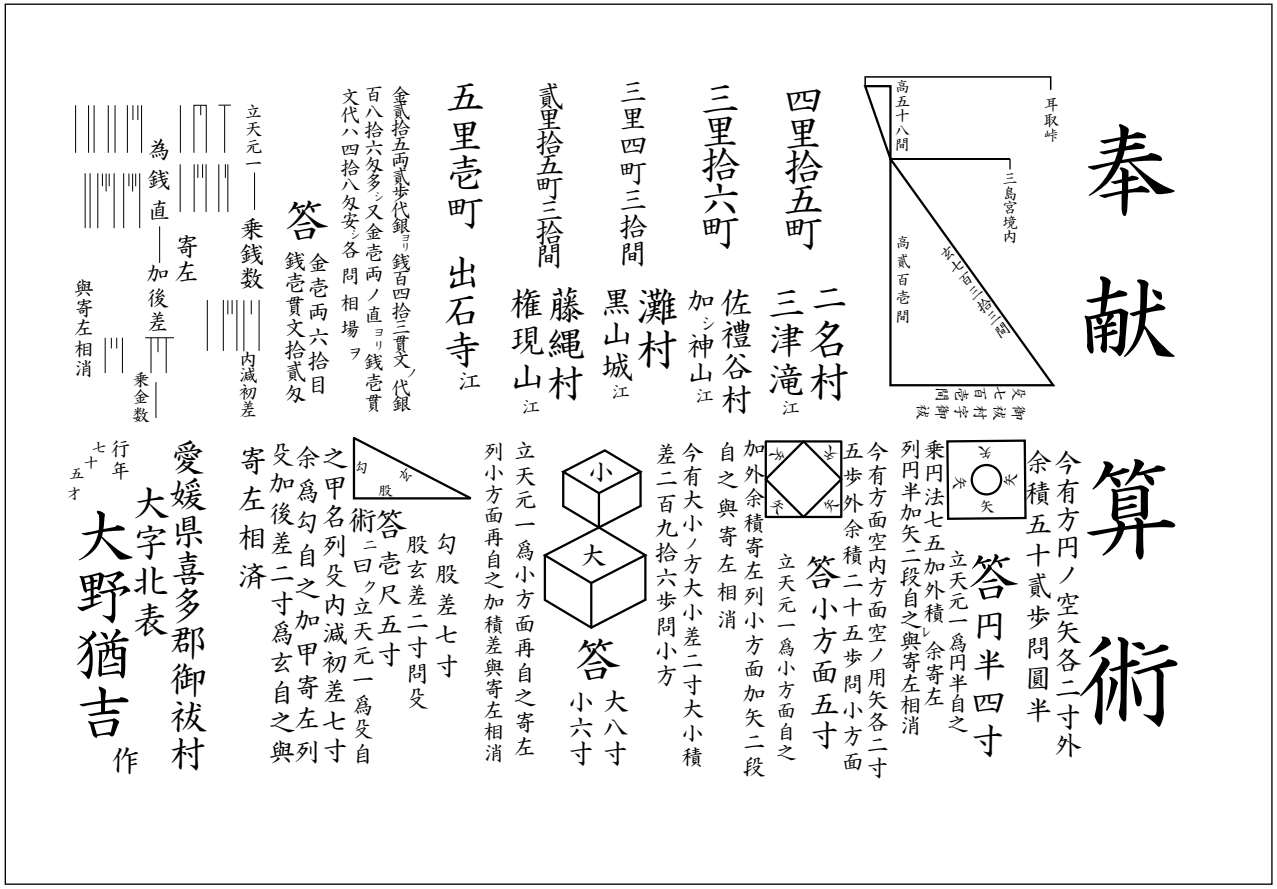
社 寺 名　元郷社三島神社（喜多郡内子町五十崎甲 1521-1）

奉 納 者　大野猶吉

奉 納 年　明治 27 年（1894 年）



解　　説

大野猶吉は幼い頃より勉学を好み、岩田清謹に和算を学び、その奥儀を極めた。明治 28 年、三島神社の改築にかかわり、多くの私財を寄進した。

５問は天元術（方程式）の基本問題を傍書式で解いている。

奉納時期を考えると後世に天元術を伝えるために奉納された算額と思われる。

なお当神社にはもう一面判読できない算額がある。地元では奉納者は大野猶吉といわれ、かすかに見える図形の一部から推察するとハイレベルの問題のようで“奥儀を極めた”が分かる。

問題文

1　金 25 両の代金（銀）は、銭 143 貫の代金より 186 匁多い。又、金１両より銭１貫は 48 匁安い。各相場を問う。

2　正方形内に円があり、矢は各２寸、外余積 52 歩である。円の直径を問う。（注：円半と読めるが円径である。）

3　正方形内に正方形があり、矢は各２寸５分、外余積 25 歩であり、小さい正方形の１辺の長さ（小方面）を問う。

4　大小の立方体があり、大小の（１辺の）差は２寸、大小の体積の差は 296 歩である。小さい正方形の１辺の長さ（小方面）を問う。

5　直角三角形において、勾と股の差が７寸、玄と股の差が２寸のとき、股の長さを問う。